

2005年1月20日

報道関係者各位

創元社 編集部 谷川 豊  
著 者 上田信道

## メディアと童謡をめぐる《ふしぎ》を解き明かす新刊書

このほど、『**名作童謡ふしぎ物語**』を出版しました。

今年は、北原白秋生誕 120 年、野口雨情没後 60 年の節目の年に当たります。また、平成 17 年度から使用される音楽教科書や国語教科書にも復活するなど、いまあらためて**名作童謡が注目**されています。この本では、“すべては学校・雑誌・レコード・映画・ラジオを通じて拡まった！”をキャッチフレーズに、誰もが知っている名作童謡が歌い伝えられるようになった経緯などを明らかにしました。現地取材や文献研究をもとに、メディアと名作童謡をめぐる《ふしぎ》について、興味ぶかく、わかりやすく解き明かします。

「蛍の光」(文部省唱歌)「牛若丸」(文部省唱歌)「我は海の子」(文部省唱歌)「どんぐりころころ」(青木存義・作詞/梁田貞・作曲)「早春賦」(吉丸一昌・作詞/中田章・作曲)「夏は来ぬ」(佐佐木信綱・作詞/小山作之助・作曲)「青い眼の人形」(野口雨情・作詞/本居長世・作曲)「ペチカ」(北原白秋・作詞/山田耕筰・作曲)「証城寺の狸囃子」(野口雨情・作詞/中山晋平・作曲)「みかんの花咲く丘」(加藤省吾・作詞/海沼実・作曲)「夏の思い出」(江間章子・作詞/中田喜直・作曲)「ぞうさん」(まど・みちお 作詞/国伊玖磨・作曲)の**12 曲のほか多数**を取り上げました。また、「はじめに——童謡はどのようにして拡まったか」や附録「名作童謡関連年表」ほかを収録しています。

### 【著者のコメント】

20 世紀に大衆化したメディアのうち、すでにレコード盤という記憶媒体は姿を消しました。磁気テープ、CD、MD、DVD、HD など、記憶媒体の変化はめまぐるしいばかりです。ラジオやテレビも、デジタル放送に切り替わろうとしています。童謡の全盛期には想像もできなかったインターネットというメディアも登場しています。そういう中で、いまの子どもたちには、日本人が長い年月にわたって創りあげてきた多くの名作童謡に触れることを通じて、日本語の美しいリズムや言葉の響きに触れてほしいと思います。そして、優れた日本文化の伝統を継承してもらいたいものです。

### 【著者紹介】

1953 年大阪市生まれ。大阪教育大学大学院修了。大阪府立高校教諭、大阪国際児童文学館主任専門員を経て、現在・神戸親和女子大学非常勤講師など。日本児童文学学会、雨情会会員。明治・大正期の芸術的児童文学や大衆的児童文学などの日本児童文学史の研究、童謡・唱歌史の研究、現代児童文学の評論など。著書に『日本児童文学大事典』(共編著・大日本図書)、『現代日本児童文学選』(共編著・森北出版)、『日本昔噺』(平凡社東洋文庫)、『謎とき 名作童謡の誕生』(平凡社新書)ほか。

著者のホームページ：<http://www.nob.internet.ne.jp> 著者の E メール：[ueda@nob.internet.ne.jp](mailto:ueda@nob.internet.ne.jp)

タイトル：『名作童謡ふしぎ物語』	ISBN 4-422-70008-1 C0073
著者：上田信道 (うえた・のぶみち)	発行所：創元社 税別本体価格：1,500 円
判型：四六判 頁数：230 ページ	発行日：2005 年 1 月 20 日

■このプレスリリースに関するお問い合わせは下記まで

創元社 編集部 谷川 豊

〒541-0047 大阪市中央区淡路町 4 丁目 3-6

TEL：06-6231-9011 Fax：06-6233-3112 Eメール：[tanigawa@sogensha.com](mailto:tanigawa@sogensha.com)